中期経営計画

1. 中期経営ビジョン 2016 - 2020

(=5年後の将来にあるべき姿)

- (1) 市場，社会におけるポジション・対外的評価
⇒ 地域の福祉ニーズに応え，安心した暮らしを守る
- (2) 事業運営の将来像
⇒ 外部環境による経営リスクを最小限にし，効率的な事業運営により
強靱な財務体質を築く
- (3) 組織と人のあり方
⇒ 成長意欲の高い人材の育成に取り組み，様々なライフスタイルに
合わせた働き方を実現させる

2. 中期経営方針

(=中期経営ビジョンに掲げた目標を実現するための活動方針)

- (1) 財務の視点
 - キャッシュベースで，2016～2020年の収支差額累計3億円を達成する
 - 長期借入金の償還原資を確保しかつ貸金水準を維持する
- (2) 利用者の視点
 - 地域の高齢者・障害者の潜在ニーズを引き出し，それらに応える価値を提供する
 - 高齢化・重度化に対応するために，ハード・ソフトの両面を強化する
- (3) 職員の視点
 - 高い専門性と豊富な知識・技術を身につけるための人材育成プログラムを策定・運用する
 - 女性でも働きやすい職場を目指し，労働環境・労働条件を整備する

(4) 業務プロセスの視点

- 業務の標準化，合理化を進めるために，マニュアルと組織編成を見直す
- 外部への情報発信量を増やし，法人事業の可視化を進める

(5) 地域貢献の視点

- 公的サービスを受けられずに困窮している方々の声に耳を傾け，手を差し伸べる
- 同じ悩みを抱える方々が集まり，相談できる場を提供する

3. 中期経営戦略

(=中期経営方針に沿って目標を達成するための手段)

- (1) 法人本部の機能強化と計画的な人材確保・定着・育成
- (2) 北の峯学園・ライフサポート彩 利用者の重度化・高齢化対策
- (3) 障害通所事業所の再編
- (4) デイサポートかみふらのの段階的な事業拡大と
障害者グループホームの生活環境整備
- (5) 安定した介護人材を確保する。(変更)
- (6) 第2種事業の安定した事業運営を探る。(変更)

4. 行動計画と達成状況

【達成状況】 ○：達成 △：実行して未達 ×：実行せず

【継続判断】 継：継続 断：中断 止：中止 変：変更 追：追加

	2016	2017	2018	2019	2020	継続 判断
戦略（1）法人本部の機能強化と計画的な人材確保・定着・育成						
取組① 法人本部事務局の人員増強	△	△	○			—
取組② 社会福祉法人制度改革への対応	△	○				継
取組③ 採用活動の強化	△	△	○			継
取組④ 人材育成計画の策定	×	×	△			継
取組⑤ 人事考課者研修の実施	×	×	△			継
取組⑥ 労働環境の改善	△	△	△			継
取組⑦ 事業所内保育所の開設について	△	○				—
取組⑧ 事業主行動計画の策定	△	△	△			継
戦略（2）北の峯学園・ライフサポート彩 利用者の重度化・高齢化対策						
取組① 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）の受講	○	○	○			継
取組② GH利用者への医療分野での専門的な支援	○	○	○			継
取組③ 法人所有GHの防災対策	△	△	△			継
取組④ 高齢障害者に対するサービス変更（入所施設への移行）	×	△	○			継
取組⑤ 支援員の介護知識・技術の向上	○	○	○			継
取組⑥ 高齢・重度の利用者が生活するGH住居の整備	×	×	△			継

	2016	2017	2018	2019	2020	継続 判断
戦略（3）障害通所事業所の再編						
取組① サポート・ステーション栄町の定員増と事業所の改築	△	△	△			継
取組② 通所事業の事業別運営と作業種拡大への取り組み	△	△	△			継
戦略（4）デイサポートかみふらのの段階的な事業拡大と障害者グループホームの生活環境整備						
取組① 上富良野エリア ○北の峯学園上富良野事業所の単独化と定員増（20名から30名へ） ○上富良野町内にグループホーム（以下GH）開設とGH住居増設とGH単独化 ○GHの夜間支援体制づくり	×	×	×			継
取組② 富良野エリア ○富良野市内の老朽化GH住居の整備 ○GHの夜間支援体制づくり	×	×	△			継
戦略（5）安定した介護人材を確保する						
取組① ターゲットに応じた戦略を講じる ○高校生・専卒・大学生の新卒者に対する求人活動を法人本部と協力して行う ○市内近郊在住者に対する中途採用者確保に向けた求人対策を協議・実施する			△			継
取組② 介護等業務内容を再検討し、求人対象者の幅を広げる ○生活支援業務等、直接介護業務と区別した職務の必要性を模索する ○障害者雇用を推進する			○			継

	2016	2017	2018	2019	2020	継続 判断
戦略（6）第2種事業の安定した事業運営を探る						
取組① デイ3事業所のケア体制の整備 ○30年度報酬改正に伴うデイサービス事業の在り方、運営規模を検討する ○デイあさひ郷施設・備品等の老朽化に対する改善策を本部と協議する			△			継
取組② 居宅事業所運営の方向性を探る ○人員配置数並びに効率化をはかる等、今後の運営の在り方を協議する ○上富良野町、山辺地区等のニーズに対し、行政との協議にて対応できるか再検討する			△			継

以下余白

5. 2018年度の達成状況と今後の動き

戦略 (1) 法人本部の機能強化と計画的な人材確保・定着・育成

取組① 法人本部事務局の人員増強

(実施主体：法人本部)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○財務・経理・給与のルーティン業務を集約し、効率性を高める。</p> <p>※局内での部門による業務確立を目指す。</p> <p>○賞与支給額の算定。 人事考課制度の導入を進め、ポイント制での賞与支給を開始する。</p> <p>○サポート栄町改築に向け、引き続き協議書を提出する。</p> <p>※実施設計を進める。</p>	<p>○完全な移行には至っていないが、事務局の業務として浸透している。</p> <p>※年度中に進めることが出来なかった。</p> <p>○人事考課者研修は進めているが、考課が次年度からで、全員が標準ポイントとなっている。</p> <p>○2019年度事業として、昨年7月に協議書提出。 土地の確保（賃貸借）については、富良野市の理解を戴いている。</p>	<p>○さらに効率性を求める。</p> <p>※局員が受持つ業務を明確し進める。</p> <p>○2019年度より一部を除き人事考課制度を導入する。2020年度より開始の予定である。</p> <p>○2018年度末に、「社会福祉施設整備事業選定施設公表一覧」に掲載された。 今後は国の判断を待つことになる。 現状について富良野市に伝えている。</p>

取組② 社会福祉法人制度改革への対応

(実施主体：法人本部)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○会計監査人の設置が2019年4月から求められている。そのため、監査法人の情報を収集し選定作業に入ることとする。会計監査人の選定については、遅くとも12月までに確定する。</p> <p>○内部統制構築に向けても、計画通り進めて行く。(29.10から30.12まで)</p>	<p>○仲世古理事長が経営協の全国大会に参加した時、会計監査人の設置が延期になるかもしれないという情報をキャッチした。その後、厚生労働省の通達を受け確認したところ延期になったことが記載された。</p> <p>○内部統制構築に向けて、吉岡経営センターに協力を戴きながら体制を整備。最終的な詰め部分は、各施設等の協力がなければ出来ない事項がある。</p>	<p>○具体的な、開始時期は示されていないが会計監査人を設置することになっても課題が無いよう準備を進める。</p> <p>○各施設等の都合に合わせ、内部統制を進めるためのヒアリングを実施する。</p>

取組③ 採用活動の強化

(実施主体：法人本部)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○事務局長が採用責任者として採用計画を策定。法人本部を窓口として採用活動開始。担当者は学校を訪問し、見学に繋げるよう努め、受入れる施設は見学者が興味をもつよう配慮する等一丸となって採用活動に力を注ぐ。</p> <p>○外国人介護士の採用検討・情報収集。 ※引続き外国人介護士の採用に伴う情報収集を行う。</p> <p>○介護初任者研修受講者への奨学金制度実施中。</p> <p>○介護初任者研修実施準備（～2019年度） ※法人内での研修実施を検討している。</p>	<p>○平成31年度新規採用者（新卒者のみ）15名</p> <p>旭川市、札幌市などの大学・専門学校を訪問。4月～3月の間で採用活動に従事している。</p> <p>○東川町で開催した、外国人介護福祉人材育成支援協議会設立に向けた説明会に参加。また、技能実習指導員等の研修に2名の職員が参加している。</p> <p>○介護初任者・実務者研修受講者への奨学金制度利用者は、3年間で49人を数え内25人が介護福祉士を取得している。 (3年間の貸与金額 約600万円)</p> <p>○人員に余裕がなく、実施できていない。</p>	<p>○新年度の採用に向けて、事務局長が採用計画を立案し、運営協議会等で説明を行い、各施設の協力を求める。 さらに大学卒、専卒等のOBの協力を得て学校側との関係を良好なものにする。</p> <p>○外国人介護士について、受け入れ態勢を学ぶ研修に職員を参加させる。</p> <p>○資格取得に係る奨学金制度については新年度においても希望者が多数おり対応していく。</p> <p>○再度、費用対効果等を考慮したうえで判断する。</p>

取組④ 人材育成計画の策定

(実施主体：法人本部)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○法人本部が受け持つ部分と施設・事業所が担う部分に分けて整理する。 プログラムの在り方について委員会等を設置し協議していく。</p> <p>○先進的な取組をしている施設の情報収集と視察。</p> <p>○人材育成部門を設置し、体系的な研修プログラムを立案・運用。 (専門スキル・マネジメントスキル)</p> <p>○人材交流先の選定・交流プログラムの策定</p>	<p>○委員会を立上げ、新年度に向けて人材育成に係る、研修計画を整備した。</p> <p>○訪問施設。 障害者福祉事業を主として経営している「社会福祉法人音別憩いの郷」を係長クラス2名が施設実習を行っている。</p> <p>○人材育成部門等の設置までは至っていない。</p> <p>○未実施となっている。</p>	<p>○研修の体系、研修の内容を整理したため、これらに基づき人材育成を進める。</p> <p>○引き続き進めていく。</p> <p>○内容について協議を継続する。</p> <p>○実施について協議を継続する。</p>

取組⑤ 人事考課者研修の実施

(実施主体：法人本部)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○人事考課者研修を実施。 ※まずは、役職付きの者から考課者研修を実施し、次年度からの運用を目指す。</p>	<p>○期間を定め、人事考課者研修を行った。 対象者～主任以上。</p>	<p>○2019年度 考課者・被考課者を定める。 (一次考課者、二次考課者) 人事委員会を発足させる。 (一部の役員に係ることから、改選後の7月以降に定めることとする)</p> <p>※4/15まで 目標面接とする。 その後人事考課について適宜、研修会を実施。</p> <p>9/16～10/15 中間面接とする。 1/16～2/15 自己評価結果集計 一次考課、二次考課実施。</p> <p>2/16～3/15 フィードバック面接 法人・事業所により 事業計画等策定の後 目標を設定する。</p>

取組⑥ 労働環境の改善

(実施主体：法人本部)

2018 年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>引続き ○サービス残業を撤廃。 ○時間外労働を削減。 ○年次有給休暇の消化率アップ。 ○パート職員の雇用促進。 なお、○魅力ある職場会議については一旦中止。</p> <p>○ICT の活用による業務効率化（～2020年度）。</p>	<p>○サービス残業については管理者レベルの者が日常業務を改善することで減少に向かっている。</p> <p>○一方、時間外労働については、職員の人員数が不十分の場合は、上司からの命令により増加した施設もある。</p> <p>○年次有給休暇の消化率については、監事監査時（年2回）に状況報告を行っている。消化率の上昇が窺える。</p> <p>○パート職員の雇用促進について、単にパート職員を増員するのではなく、働きやすい時間帯や業務内容について同時に整理している。</p> <p>○ICT の活用は具体的な活用まで至っていない。</p>	<p>○引き続き、サービス残業が無くなるよう業務改善・管理に努める。</p> <p>○運営を安定させるために一定の人員数を確保する。</p> <p>○有給取得率 60 パーセント以上を維持していく。</p> <p>○日中サービス事業所において正規職員の比率を検討し、準職員やパート職員にシフトしていく。（正規は入所系へ） 2019 年度から就業規則等を改正し、時給を含めた待遇の見直しを図る。</p> <p>○ICT の活用を継続協議する。</p>

取組⑦ 事業所内保育所の開設について

(実施主体：法人本部)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
○当初の目標である定員を19人にする。	○31年3月において、8人の利用者となっている。(4月より0歳児3人入園予定)定員は12人に留まっていたが、今後利用者が増える見込み。	○4月から徐々に利用者が増え、最大17人になることが予想されるため、定員を19名に変更する。

取組⑧ 事業主行動計画の策定

(実施主体：法人本部)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
○次世代育成支援対策推進法にもとづく一般事業主行動計画の策定。 ※計画の内容について職員に周知するとともに、HP上に掲載し、目標を達成。 有給休暇取得率の向上。 育児休業の取得を促す	○有給休暇取得への取組みについては各施設で認識し、目標を上回っている。育児休業の取得については、促している状況である。	○引続き、目標達成のため、施設・事業所に対し協力を求める。

戦略 (2) 北の峯学園・ライフサポート彩の重度化・高齢化対策

取組① 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）の受講

(実施主体：北の峯学園)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
○強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）（～2020年度）。計画的に受講させる。	○2018年度3月現在 障害者事業全体基礎研修27人修了 （内、実践研修6人修了）	○引続き、研修修了者を増やし利用者への適切な処遇を推進するとともに、加算の取得に向けて確実にを行う。

取組② GH利用者への医療分野での専門的な支援

(実施主体：ライフサポート彩)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
○GHへ看護師の配置を行い、健康管理等の充実を図る。	○北の峯学園との連携により、看護師配置による体制を維持している。 通院を担当する生活支援員を育成し、利用者の状況を的確に看護師に伝達できるよう進めている。	○引続き、医療体制の維持に努めるとともに夜間等の緊急時においても看護師との協力体制を構築する。

取組③ 法人所有GHの防災対策

(実施主体：ライフサポート彩)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○賃貸借契約を締結して使用している住居については、スプリンクラーの設置はない。建物自体の状況も踏まえ、今後の安全対策を協議していく。</p> <p>○火災以外の災害対策については、水害を想定した訓練と地震に対する備えについて研修を予定。</p>	<p>○費用の問題、建物契約期間の問題がありスプリンクラーの設置を推進するのは現状では難しい。</p> <p>○平成30年11月23日に訓練を実施。</p>	<p>○既存の建物にスプリンクラーの設置は難しい。新たな住居について検討する。</p> <p>○災害マニュアルに則り、計画的に訓練を実施する。</p>

取組④ 高齢障害者に対するサービス変更（入所施設への移行）

(実施主体：ライフサポート彩・北の峯学園・北の峯ハイツ・寿光園)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○GH利用者の身体状況に応じたサービスの変更と、入所施設への緩やかな移行（～2020年度）。</p> <p>※北の峯ハイツ・富良野市寿光園等との連携</p>	<p>○利用者の身体状況等を踏まえ、適正なサービスを提供する。</p> <p>年度内の動きとして 入所者1人名が、富良野市寿光園へ 入所者2人名が、北の峯ハイツへ それぞれ高齢者施設に移行している。</p>	<p>○引続き、高齢な利用者の身体状況に配慮し、適切なサービスが提供できるよう、ご本人・家族・施設、事業所で協議し、必要に応じ進めていく。</p>

取組⑤ 支援員の介護知識・技術の向上

(実施主体：北の峯学園・ライフサポート彩)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
○支援員の介護知識・技術の向上にむけた法人内連携による研修実施およびケース検討会議の充実（～2020年度）。	○シーティング研修、口腔ケア研修等、北の峯ハイツの内部研修に参加。また、業者等の協力を得てポジショニング研修を北の峯学園にて開催し職員会議等で周知している。	○引続き、北の峯ハイツ内部研修に参加する。また、障害高齢者に関連する外部研修にも計画的に参加させる。

取組⑥ 高齢・重度の利用者が生活するGH住居の整備

(実施主体：ライフサポート彩)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
○バリアフリー住居の整備に向けた研究と費用の算出。 ※再度、利用者の身体状況と建物環境について協議することとする。 ※生活に支障をきたす場合があれば速やかに法人及び家主と協議し生活環境の改善に取り組む。 そのために必要な予算を確保する。	○大規模修繕までには至っていない。	○利用者の身体状況を鑑み、建物環境・設備の状況を調査する。

戦略 (3) 障害通所事業所の再編

取組① サポート・ステーション栄町の定員増と事業所の改築

(実施主体：サポート・ステーション栄町)

2018 年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○2019 年度整備事業計画書について、7 月に上川総合振興局に提出している。</p> <p>※移転改築時には定員を 10 人増員予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活介護 14 人 ・就労移行支援 6 人 ・就労継続支援 B 型 40 人 (30→40) <p>※相談事業所を併設予定。</p> <p>○実施設計を施行する。</p>	<p>○3 月 28 日公表の社会福祉施設整備事業選定施設公表一覧に掲載されている。</p> <p>○実施設計は、ほぼ完了しているが、補助金の可否によっては、事業の変更があり得るため、開発行為手続の着手を遅らせている。</p>	<p>○6 月には、補助の可否が示される予定。</p> <p>※補助事業として採択の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事会で内容、資金計画を再説明。 ・富良野市及び地域住民への説明。必要に応じて設計士へ参加要請。 ・入札準備 ～ 竣工を目指す。 ・事業変更届等振興局への対応。 ・現事業所及び工房すきっぷの活用。 <p>※補助事業が不採択となった場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業を継続するか否か再度判断する。 ・事業規模について協議する。 ・富良野市及び地域住民への説明。 ・内容、資金計画について協議、説明。

取組② 通所事業の事業別運営と作業種拡大への取り組み

(実施主体：障害通所全事業所)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○通所事業所における事業種について生活介護・就労継続B型・就労移行等利用者の状態に即した、事業種及び事業定員を見直す。報酬単価による影響もあるため慎重に協議し方向性を定める。</p> <p>○デイ芽ぐみ野で野菜工場開始。 2018年4月から販売を開始している。</p>	<p>○サポート・ステーション栄町移転改築事業が1年遅れたため、協議を中止している。</p> <p>○予定していた、生産量に届かず、目標収入には未到達。 その原因として、予定の歩留まりを下回ったことと、一袋のグラム数が少ないとの注文を受け、調整したため販売数が減ったことが原因のひとつ。 なお、販売先の開拓は継続して実施。 現在の卸先としては、富良野市場、市内飲食店、ホテル関係となっている。</p>	<p>○補助金の可否に影響されるが、安定した事業運営を行うために、事業種の変更や定員変更を想定し、効果的な事業展開を整理し素案をまとめる。</p> <p>○販路拡大を目指し目標売上を達成する。</p>

戦略（4）デイサポートかみふらのの段階的な事業拡大と障害者グループホームの生活環境整備

取組① 上富良野エリア

- 北の峯学園上富良野事業所の単独化と定員増（20名から30名へ）
- 上富良野町内にグループホーム（以下GH）開設とGH住居増設とGH単独化
- GHの夜間支援体制づくり

（実施主体：デイサポートかみふらの・ライフサポート彩）

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○引続き、定員30名を目標に掲げ、その実現に向け利用者確保に努める。</p> <p>○GH定員増に向けた地域ニーズ調査。今後は女性の住居の確保・サービスの開始に向けて進める。</p> <p>○夜間支援体制の研究と準備（～2018年度）。夜間支援の内容や必要性、職員採用にも係るため慎重に進める。</p>	<p>○定期的に保健福祉課からの情報を取得。また、要望があれば養護学校からの実習生を受入れしているが、利用には至っていない。</p> <p>○住居の確保に努めているが、条件をクリアする物件が見つからない。</p> <p>○現状を継続するに留まっている。</p>	<p>○現在登録者20名。定員増員に向け段階的な確保を目指す。</p> <p>○地元住民の方にも協力をいただき、物件を確保する。2019年中に確保する。</p> <p>○改めて必要性を協議する。実施に向け動き出すことになれば、期間を設けてシュミレーションを行う。</p>

取組② 富良野エリア

- 富良野市内の老朽化GH住居の整備
- GHの夜間支援体制づくり

(実施主体：ライフサポート彩)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○住居の状況については、改めて巡回・調査し、富良野市内の新たなGH住居の確保（住居異動）も含め、今後を見据えた計画を再度練る。</p> <p>○夜間支援体制の研究と準備（～2018年度）。</p> <p>※夜間支援体制は研究中。 利用者の状況を踏まえ夜間勤務等の職員の必要性を確認。</p>	<p>○整備の必要性について確認中。</p> <p>○現状を継続するに留まっている。</p>	<p>○富良野市内の新たなGH住居の確保は想像以上に難しく、また、変更した場合現在の建築基準・消防法に則るとされ、改修をすることの了承を貸主にいただくことになると思われる。</p> <p>現時点では、防火管理に努め出来る限り現状の住居を使用していくこととする。設備等の点検は定期的に行い、修繕が必要な箇所があれば早急に対処する。</p> <p>○当直等の夜間支援体制については、改めて必要性を協議する。 実施に向け動き出すことになれば、期間を設けてシュミレーションを行う。</p>

戦略 (5) 安定した介護人材を確保する

取組① ターゲットに応じた戦略を講じる

(実施主体：高齢者福祉事業)

2018 年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○高校生・専卒・大学生の新卒者に対する求人活動を法人本部と協力して行う。初の試みとして、北の峯ハイツにて高校生アルバイトを受け入れる。</p> <p>○市内近郊在住者に対する中途採用者確保に向けた求人対策を協議・実施する。活動を法人本部と協力して行う。</p>	<p>○求人担当者からの見学者受入れの体制を見直し、事業の説明や職場環境についてより分かりやすく説明するよう心掛けている。</p> <p>高校生アルバイトについては、3 人の方が来園。現在も 1 人が継続されている。</p> <p>○ハローワーク掲載や定期的にチラシを折り込んで、中途採用を行った。</p>	<p>○高齢者事業では、6 名の新卒者を採用する事が出来た。</p> <p>引き続き、法人本部と協力し合い採用を行っていく。</p> <p>○数人の採用は行ったが、慢性的な人員不足は解消されていない。引き続き採用活動を行う。</p>

取組② 介護業務内容を再検討し、求人対象者の幅を広げる

(実施主体：高齢者福祉事業)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○生活支援業務等、直接介護業務と区別した職務の必要性を模索する。</p> <p>○障害者雇用を推進する。</p>	<p>○介護職員が行う業務とその他の職員でも出来る業務を整理し、効率的に職員を配置することを目指す。また、より人員配置を厚くしたい時間帯にパート職員を採用することにも取り組んでいる。</p> <p>○以前から業者に委託していた、北の峯ハイツ施設内の清掃や洗濯業務を、法人内の障害福祉サービス事業所で出来ないか検討し準備を進めた。</p>	<p>○新年度より、介護業務の補助的な役割を担う職員として、「生活アシスタント」と称し配置を決めた。 待遇は、主にパートタイム職員である。</p> <p>○新年度より、「サポート・ステーション栄町」の就労事業種として職員と利用者で行うこととした。 業務は、日曜日以外の日に実施し、職員1人、利用者6人が北の峯ハイツに出向くこととなった。 (寿光園清掃は職員1人、利用者4人)</p>

戦略 (6) 第2種事業の安定した事業運営を探る

取組① デイ3事業所のケア体制の整備

(実施主体：高齢者福祉事業)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○2018年度報酬改正に伴うデイサービス事業の在り方、運営規模を検討する。</p> <p>○デイあさひ郷施設・備品等の老朽化に対する改善策を本部と協議する。</p>	<p>○利用定員を維持するために、介護職員及び看護職員確保を確保している。 また、清掃等補助業務を当法人障害福祉サービス事業者へ委託準備を進めた。</p> <p>○暖房・給湯ボイラー、給水ポンプ、塩素導入機、エレベーター等長く使用しているものが多く、定期的に保守点検を継続し場合によっては、部品等の交換を行っている。</p>	<p>○今後も継続するために、人材の確保・育成・定着を安定させていく。 収入と人件費のバランスに配慮する。</p> <p>○日常の確認、定期点検を行い建物設備を維持し、1年でも長く使用する。 年度内に設備の調査を行う予定。 煙突部分にアスベスト資材が含まれている可能性があるため5月末に調査を行う。</p>

取組② 居宅介護支援事業所運営の方向性を探る

(実施主体：高齢者福祉事業)

2018年度の行動計画	達成状況	今後の動き
<p>○人員配置数並びに効率化をはかる等、今後の運営の在り方を協議する。</p> <p>○上富良野町、山部地区等のニーズに対し行政との協議にて対応できるか再検討する。</p>	<p>○協議の結果、収支バランスの改善を図るため、職員数を4名から3名に減員することとし、昨年10月より富良野市、関係事業所に理解と協力を求め準備を進めた。</p> <p>○ニーズに対し、行政を巻き込んで新規に取り組んだものはない。</p>	<p>○2019年4月からは3名体制で始動。引続き、居宅介護支援事業所の責務を果たすため目標を掲げその達成に努める。事務立寄り所として北の峯ハイツも利用し、業務の効率化を図る。</p> <p>○今後も調査を続け、上富良野町、山部地区でのニーズに対しての協議を続ける。</p>